

●信濃川やすらぎ堤利用調整協議会 意見対応状況

↓○:実施、△:一部実施、—:検討、未実施

↓○:実施(予定含)、△:一部実施、—:検討、未実施

協議会 会期	意見	～R4	実施内容	R5～	今後の対応(予定含)
平面計画 空間づくり					
12	左岸の活用、一体感の創出	△	左岸側への出店や古町側への回遊性を高めるイベントの実施(左岸ウォーキングイベント(R4)など)	—	左岸の活用は市が受付する
13	各店舗専用の客席だけではなく、自由に利用できる空間があると良い	△	斜面を一般利用者向けに開放 芝生席として応急的な座布団(クッション)提供の実施(R3～) 焚火ラウンジを設置し自由席として提供(R3～)	△	継続
16	一般市民向けの場所もあると良い				
テナント計画 イベント計画					
12	新潟市のお酒のPR	○	新潟の酒蔵と連携したイベントを開催(R1～)	○	継続
18	子ども連れのファミリー層が安心して楽しんでもらえるように、「子どもが過ごす場所」があるとよい	△	マルシェイベントの実施(R3)、焚火ラウンジでのワークショップ(R4)、キッチンカー(クレープなどスイーツ物販)の誘致(R4)	△	継続 +より魅力的なコンテンツを検討していく +SDGsに該当する取組に関しては、該当項目の明示などに努める
19	SDGsを意識した子ども向けのイベントがあるとよい				
18	ピーク時、席数の不足や商品提供の遅れといった状況の際、利用者のニーズに柔軟に対応できる体制があるとよい	○	キッチンカーの誘致(R4)、左岸側の新店舗誘致(R4) 芝生席として応急的な座布団(クッション)提供の実施(R3～)	○	継続
新規意見	イベントに紐づいた飲食チケット(クーポン)の導入(提案)	—		△	検討していく
新規意見	桜やチューリップの時期に、飲食とともに、身体を動かし、年齢を問わず参加できる催しの増加を期待	—	(春季に、デイキャンプ(R3～)、宿泊キャンプ(R4)、キッチンカー誘致(R4)を行い、賑わいの場を提供している)	△	現状の取組は継続 +より魅力的なコンテンツを検討していく
地域連携 地域貢献					
17	自主事業は、利用者のニーズに合わせた対応や地域連携等により、利用を促してほしい	△	「水辺キャンピングオフィス」(R1～)→「デイキャンプ」に名称変更(R4) ・料金とコンセプトを見直し、気軽な利用を促進 「スマートクルーズ」(R3～R4) ・(一社)にいがたレンタサイクルとの連携。新潟島のサイクリングマップで案内 「宿泊キャンプ」(R3～) ・レンタルプランに加えて、要望の多かった持込可のプランを追加(R4)	△	継続
18	ミズベリング終了後の芝生の状態	○	芝生の損傷部(テラス設置法面、バーカウンター設置周辺、その他保護材が露出している箇所)について、芝土の補充と肥料を散布	○	継続
20	さまざまな事業との連携を進めてほしい(他イベントチラシ内容の共有なども有効(内容の一部に他のイベントのことを記載するなど))	—		△	他イベント、周辺団体との連携を意識して進める
広報 コミュニケーション					
12	まちの中からやすらぎ堤に導くような案内の方法	○	案内看板等の充実、駅へのデジタルサイネージの掲出など(R1～)	○	継続
12	多言語への対応について	△	観光コンベンション協会のリンクをミズベリング公式HPに設置することで対応(R1～) ・チラシや看板による多言語配信は実施していない	△	継続
19	「キッチンカー」は出店状況を情報発信し、わかりやすく広報してほしい。	○	公式HP上に出店予定カレンダーを掲載、公式SNSでの発信	○	継続
19	コロナ禍におけるやすらぎ堤のアドバンテージとして、ニューノーマルな過ごし方をPRしたらどうか。	○	公式HPやSNS等でコロナ対策を実施している旨を周知	○	継続(感染症対策の内容は実施時の指針等に準じる)
20	イベントの周知期間を確保し、イベントに関して地域理解に努める	△	公式HPや公式SNSによるイベントの早期周知 ・特段、イベント種別に応じて周知方法を変えることはしていない	○	継続 +騒音が懸念されるイベント等に関しては、開催時間の配慮や早期の周知に努め、イベント種別によっては告知方法を変えるなどして、近隣住民へ周知する
安心 安全 苦情対応 その他					
16	異常気象・災害・緊急時の対応基準や連絡体制の明文化と周知徹底	○	緊急時等における対応基準や連絡体制等を構築し、関係者間で共有した	○	継続
17	利用者に対し、統一した現場対応をとってほしい	○	出店者に防災メール登録を義務付け、中止時の連絡順序を明文化、危険行為(河川内への侵入)や迷惑行為に関する対応を記載	○	継続
20	SUP体験(水面利用)に関して、イベント時の安全対策を行ってほしい。	○	ライフジャケット着用義務化、受入人数を制限	○	継続
新規意見	音が生じるイベントに関し、周辺への周知・運営方法の検討	—	これまではSNSでの周知をメインとしていた	○	騒音が懸念されるイベント等に関しては、開催時間の配慮や早期の周知に努め、イベント種別によっては告知方法を変えるなどして、近隣住民へ周知する

資料1-7

●信濃川やすらぎ堤利用調整協議会 レビュー資料

↓○:実施、△:一部実施、—:検討,未実施

↓○:実施(予定含)、△:一部実施、—:検討,未実施

協議会 会期	意見	～R4	実施内容	R5～	今後の対応(予定含)
事業評価方法 アンケート調査					
17	利用者アンケートでは、ポストコロナ時代におけるやすらぎ堤の新しい魅力や可能性についても把握したらどうか。	○	アンケート項目に「安心・安全」の項目を追加(R3～) コロナ対応に関して利用者の評価を測定した	○	引き続き、コロナ対応を踏まえながら事業を実施していく
14	回遊性の向上やすらぎ堤スタイルは「ミズベリング」だけで評価するのではなく、上位計画や周辺計画で位置付けているものとのすり合わせて目標設定や評価をしてみてもいいか	—	検討する	△	次年度以降の事業評価やアンケート調査項目の検討を別途実施する
17	評価指標は、市と当事者の間であらかじめ評価の観点を整理したほうがいい	△	市とSP間でのすり合わせを行っている(定性的)		
20	ミズベリングが市全体の賑わいにどのように貢献したか、広く市民にアンケートを取るのはいかがでしょうか	—	検討する		
14	新潟の食の評価があってもよいのでは	△	新潟の酒蔵と連携したイベントを開催(R1～)し、新潟の食の魅力を発信した・食に特化した効果測定までは実施できていない		
新規 意見	新潟の食の発信及び効果測定のためのアンケート項目の追加				
その他(やすらぎ堤スタイルについて)					
14	やすらぎ堤スタイルは新潟市の都市プロモーションの中でどう位置付けるか。単なるごみ拾いではなく魅力的な資産をライフスタイルに近づけて新潟らしさにどうつなげていくか。	—	焚火などのアウトドア体験を通じて自然との楽しみ方を提案 利用マナー啓発、事業者・出店者によるごみ拾いの実施などを推進	△	(新潟市回答) 「やすらぎ堤スタイル」の捉え方は様々だと考えている(やすらぎ堤での飲食、出店者が行うごみ拾い活動、水辺と都市が調和した景観、自由な活用、etc…)
14	回遊性の向上に向けた取り組みに取り組むことに意義がある。やすらぎ堤スタイルもこの事業を突破口にやっていくことが大事。	—			
16	新潟スタイル(やすらぎ堤スタイル)の機運を作ってほしい。	—	利用者とのコミュニケーションを工夫していく		
18	アウトプットだけではなく、既に取り組んでいる自発的な清掃活動など、「ミズベリング信濃川やすらぎ堤」ならではの取組内容やそのプロセスについて、「新潟スタイル」として広くアピールできるとよい。それにより、県内外の方からより注目していただけるのでは。	—	「新潟スタイル」はすでにできているのではないかと(研究会)		
					(新潟市回答) 「やすらぎ堤スタイル」の機運を作る足掛かりとするため、試験的に、SNSに「#やすらぎ堤スタイル」とつけて発信し、利用者への波及や投稿内容を分析するなどの試みなどを検討したい